

令和5年度 授業改善推進プランの検証

青梅市立西中学校

教科名

英語

科

1 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○週に1回、語句の小テストを行い、基礎・基本の定着を図る。また既習事項を授業の中で繰り返し使用する。 ○リスニングやスピーキングを帯活動として行い、総合的な英語の力を身に付けさせる。 ○思考力・判断力・表現力を高めるために、生徒にとってわかりやすい場面設定をし、言語活動を行う工夫をする。 ○家庭学習の課題は明確に定期的に出すことを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアワークやグループワーク、ICTを活用した授業づくりを行っていく。教師主導の授業ではなく、生徒主体の授業を実施できるよう教材研究を行っていく。 ○受験学年を見据え、家庭学習の方法が分からない生徒へのフォローアップを丁寧に行う。教員がいないときにも学び続けることができるような指導の工夫を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○帯活動で前時の復習を行い知識の定着を意識しつつ、リスニングやスピーキング活動も行うことで総合的な英語の力を身に付けさせる。 ○家庭学習の定着のために明確に課題を提示し、定期的に出すことをと、生徒にアドバイスすることを心がける。 ○思考力・判断力・表現力を高めるために、生徒にとってわかりやすい場面設定をし、言語活動を行う研究と工夫をする。

2 生徒の変容の状況および成果

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に語句の小テストを行うことで、単語を覚える意識付けをすることができた。 ○主にスピーキングを帯活動で行うことで、英語を話すことに対する積極性が高まった。 ○インタビュー活動や発表の機会を設定することで、自分や友達のことについて実感をもって英語を使う経験をさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PowerPointやKahoot!などのICTを授業に積極的に活用することができた。生徒が主体的に取り組む授業については今後も引き続き模索していく。 ○家庭学習のきっかけとなる宿題の提示やワークブックの活用などを日々指示することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に文法などのテストを行うことで、復習をする意識づけをすることができた。 ○帯活動でスピーキング活動を行うことで、即興的に英語で表現しようとする積極性が高まった。 ○発表の機会を設けることで、自分が関心のあることについて英語でまとめ、伝える経験をさせることができた。

3 次年度に向けての課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ○聞くことの活動を増やせるよう、教材と授業計画を行う。 ○定期的に家庭学習課題を出しているが、2～3割の生徒は定着できていない。細かい点検と声掛けを継続する。 ○その場では理解できるが基礎が積みあがらない現状がある。既習事項を繰り返し授業の中で使用し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が家庭学習を主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ○ESAT-Jを見据えたスピーキング指導を一層充実させていく。 ○新出文法だけでなく、既習事項を繰り返し定着させる授業研究と実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すこと、特に即興性を持ち英語で表現する活動を増やせるように年間計画を行う。 ○基礎が定着していない生徒が多くいる現状である。既習事項を繰り返し授業やワーク内で使用し、定着を図るために教材研究を行う。